

ガンコ親父の

昔、とあるところに松次郎という若者がいた。一途な性格で、稼いだ給料も真面目にコツコツ貯めていた。しかしある日、住んでいた長屋に泥棒が入り、虎の子の貯金を全部盗まれてしまったのだった。

途方にくれる松次郎の前に神様が現れ、「あなたは人生を変えするため旅に出なさい。明日、家を出た後、最初に手に触れたものを持って歩いていくのです。旅の途中の良い行動は、きつと報われるはずですから」と声をかけた。

翌朝、目覚めた松次郎は旅の一步を踏み出そうと長屋を出た。あるうことか、いきなり石ころにつまづいて転けてしまった。気づくと道に散らばっていた「わらしべ」を手に握りしめていたのだった。神様の言ったことを思い出したら冷や汗が出た。「最初に手に触れたものを持って、旅に出なさい」なんて、なんのこっちゃ。

手にしたわらしべを振り回して歩いてみると、トンボがわらしべの先に止まった。面白そうなので、わらしべの先に糸でむすんで飛ばして遊んだ。それを見ていた子連れの母親から声をかけられた。「よかったら、そのわらしべトンボを譲ってくださいませんか。今まで泣きじゃくっていた子供が、それを見た途端泣き止んでしまったものですから」。こんなものでよかったらと、子供にあげてしまった。そのお礼に、このみかんを差し上げますと、大きなみかんをくれたのだった。

しばらく歩いていくと、木陰で息も絶え絶えの着物の行商人を見かけた。時期ハズレではあるが、熱中症かもしれない。喉が渇いて苦しいので、そのみかんを分けてくれないかと声をかけられた。商人はジュシーなみかんを食べ終わると、命の恩人にと着物の反物を松次郎にくれた。

反物を抱えて歩いていたら松次郎に声をかけたのは、嫁に出す娘の着物を探していた庄屋さんだった。「娘に似合いそうな柄ですな、もしよければその反物譲ってもらうわけにはいかないだろうか」と相談を受けた。娘さんが幸せになるのであればと、松次郎はいともあっさりとし出し出した。感激した庄屋さんは家に招き、蓄えてあった『しまっちゅ伝蔵』を何本も分け与えたのだった。

「もしも、その旦那。重そうに抱えているその美味しそうな酒、殿様の宴会に使いたいのだが？」と、お城の料理番から声をかけられた。「皆様のお役に立つのであれば喜んで」と松次郎は明るい顔で言った。料理番は松次郎から、これまでの「お酒にたどり着くまでの話」を聞き出すと、あまりの私欲のなさに感激して、お城で働けるようにお殿様へ進言した。結局、お城に召し抱えられた松次郎は、幸せに暮らすことになるが、神様は松次郎の心に釘を刺すことを忘れなかった。

ある日、松次郎はお城の階段から足を滑らせ、トンボンとんと落ちてしまった。神様の仕業に松次郎は目が覚めた。これまで、あまりにもトンボン拍子に進んできたので、これはこれでよい戒めになったと神様に感謝した。調子が良い時こそ、気をつけないと。災難はいつ降り掛かってくるかわからないのだから。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



the most beautiful
villages in japan
喜界町
鹿児島県

「わらしべ長者」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。